

2019年度東海大学付属熊本星翔高等学校 学校評価結果

分野	重点目標	取組み計画・内容					次年度	第三者評価		
			成果	課題	2018年度	2019年度	今後の改善策	取組み内容の改善	自己評価 妥当性	改善策 妥当性
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営方針に沿った教育活動を実践する。</li> <li>・地域から高い評価を受ける学校づくりと中学校や保護者にも選ばれる学校づくりに邁進する。</li> </ul>	(1) 学校の特徴を示す。 (2) 入学したい・させたい学校とする。 (3) 危機管理・安全対策に努める。 (4) 教育に熱心に取り組む。 (5) 施設設備等教育環境の充実に努める。 (6) 保護者対応の充実に努める。 (7) 保護者・地域との連携と情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学したい、入学させたい学校では、昨年度に続き、生徒・保護者とも微増しており高い評価を得ている。</li> <li>・学校運営全体に対して保護者からの評価が微減したが、数値的には高い評価を維持できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学させたい学校として保護者の評価が昨年度に続き微増し、学校に対するイメージと教育内容の理解が定着しつつあると考える。日頃の教育活動を更に充実させ更なる理解促進が必要である。</li> </ul>	生徒 3.03	生徒 3.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も学校生活全般における生徒の満足度向上に努めていく。特に保護者と連携しての教育諸活動を実施し、成果を上げていきたい。</li> <li>・危機管理室及び安全衛生員会を中心に、学校運営に係る様々なリスクに対する管理体制の強化を図る。また、その概要を保護者に発信していく。</li> <li>・保護者対応についての研修会を実施する。電話の応対や伝え方等のビジネスマナーに改善をを行いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動ならびに学校改革が生徒・保護者に伝わるよう、日々の学校生活についてホームページや専用アプリを利用して発信していく。</li> <li>・地域活動への積極的な参加と通学マナーの向上、挨拶の励行を推進し、地域に認められる学校としていく。PTAにも協力を依頼し、学校全体で活動していく。</li> <li>・教職員研修を通して、知識と対応の向上に努める。自己満足とならぬようケーススタディを用いて、相手からの評価を聞く機会を設ける。</li> <li>・引き続き熱中症指数計測器、雷検知器等を整備し安全管理対策を実施する。</li> </ul>	-	-
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理・安全対策の評価では、生徒・教職員は微増したが、保護者については微減となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信は一定の評価は得ているが、昨年度を下回った。利害関係者に限定せず広く一般に向けての改善が必要である。</li> </ul>	保護者 3.12	保護者 3.03				
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の安全対策、危機管理、教職員の電話や来客対応に対して評価が昨年度を下回った。特に教職員の対応についての評価が大きく下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対応について保護者からの評価は昨年度より減少したが、教職員からの評価は微増している。教職員の価値観を見直す必要がある。</li> </ul>	教職員 3.16	教職員 3.13				
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着を図る。</li> <li>・授業の充実に努める。</li> </ul>	(1) 基礎学力の定着に努める。 (2) 家庭学習を身につけさせる。 (3) ベストティーチャー制度の充実に努める。 (4) 学習意欲の向上に努める。 (5) 東海大学と連携した授業やプログラムの推進を図る。 (6) 図書館の積極的な利用を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導においては、総合評価で生徒は微増、保護者と教職員は微減した。項目別で見ると生徒は全ての項目で増加、保護者は1項目(ベストティーチャー制度)以外では増加、教職員は1項目(指導方法や内容の工夫)以外は減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベストティーチャー制度は、保護者にとっては授業を参観する機会、教職員には自身の授業を比較して見つめ直す機会となり、取り組み自体は良いものであるが、保護者・教職員ともに評価が下がっている。保護者・教職員に有意義な企画となるよう実施方法に工夫したい。</li> </ul>	生徒 2.56	生徒 2.60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習意欲向上のためには、積極的な授業への参加、家庭での課題に留めることなく、自主的な学習の習慣を身につけさせる必要がある。</li> <li>・ベストティーチャー制度については、実施日や開催案内発信時期などを変更し、参観保護者の増加に努めたい。</li> <li>・学習に関する情報発信を積極的に行い、学校と家庭が連携して学習意欲、学力向上を図る必要がある。次年度は1・2年生がタブレットを所有するため、これを有効活用したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験指導ではなく生徒個々の興味・関心を尊重しながら学習意欲を高め、家庭学習の習慣と基礎学力の定着を図る。</li> <li>・授業時数不足などの生徒には、特別補講を通して学習意欲と基礎学力の向上を図る。</li> <li>・特進クラスを中心に学習意欲の高い生徒に対しては、課外や夏期集中講座などを実施し、更なる学力向上を図る。</li> <li>・引き続きICT機器の利用・活用方法を教員に提示し適宜講習会の実施を行う。また、教員のICTに関するスキルアップを図り、生徒へ学習教材を発信していき、基礎学力の定着向上を図る。</li> </ul>	-	-
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の利用については、生徒は微増、教職員は大幅に昨年度を下回った。教職員が低くなった要因に一人一台のタブレット導入がある。ICT教育と図書館をどのように連携させるのか検討していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の利用については、生徒は微増、教職員は大幅に昨年度を下回った。教職員が低くなった要因に一人一台のタブレット導入がある。ICT教育と図書館をどのように連携させるのか検討していきたい。</li> </ul>	保護者 2.79	保護者 2.71				
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の利用については、生徒は微増、教職員は大幅に昨年度を下回った。教職員が低くなった要因に一人一台のタブレット導入がある。ICT教育と図書館をどのように連携させるのか検討していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の利用については、生徒は微増、教職員は大幅に昨年度を下回った。教職員が低くなった要因に一人一台のタブレット導入がある。ICT教育と図書館をどのように連携させるのか検討していきたい。</li> </ul>	教職員 2.84	教職員 2.76				
クラス指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きる力の育成に励む</li> </ul>	(1) 学級担任、部活動顧問、関係教職員が連携し生徒間の好ましい人間関係の構築に努める。 (2) 生徒の悩みや問題相談に努める。 (3) 楽しいクラス運営に努める。 (4) クラス・学校の一員としての役割・自覚を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス指導において生徒・保護者ともに昨年度の評価を上回った。教職員のアンケートでは生徒間の良好な人間関係、悩み相談に対しての項目に減少が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒間の良好な人間関係、悩み相談について、2018年度アンケートでは生徒・保護者ともに減少であったが、今年度は上昇に転じることができた。逆に教職員は減少という結果が出ており、理想的な人間関係の構築に向けたさらなる取り組みを検討したい。</li> </ul>	生徒 3.16	生徒 3.19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々のホームルーム活動や学校行事を通して、生徒同士が思いやれる気持ちやクラス・学校の一員としての自覚を育むために、学級担任や部活動顧問など関係教職員が連携を図りながら、計画的に生徒への働きかけを実施する。</li> <li>・クラス指導では、各調査対象者間での評価にギャップが生じていることから、教職員の自己満足に終わらない指導内容を検討・実施する必要がある。また、クラス間で差異が生じないよう、学年主任を中心に指導や情報発信の統一を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任・教科担当教員・部活動顧問など教員間の連携を強化し、生徒の悩みや問題の早期発見と迅速な対応を実施する。</li> <li>・生徒が抱える問題も年々複雑化しており、スクールソーシャルワーカーなど専門家による教員研修を実施し教職員の意識と資質の向上を図る。</li> <li>・学級担任のみならず全教職員で、4かけ運動(声をかける・手をかける・目をかける・心にかける)の充実に努め、クラス運営をサポートする。</li> </ul>	-	-
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいクラス運営は、生徒・保護者より高い評価を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいクラス運営について生徒・保護者から高評価を得ている。今後も楽しく学校生活を送れるよう努めたい。</li> </ul>	保護者 3.07	保護者 3.16				
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が学校・クラスの一員であることの自覚に対して高い評価を得ている。その一方、保護者については評価が若干下がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス・学校の一員であることの自覚は生徒の内面的な事柄であるため、保護者には見えづらい項目である。生徒の帰属意識を高める方法を検討</li> </ul>	教職員 3.17	教職員 3.16				

2019年度東海大学付属熊本星翔高等学校 学校評価結果

分野	重点目標	取組み計画・内容					次年度	第三者評価		
			成果	課題	2018年度	2019年度	今後の改善策	取組み内容の改善	自己評価 妥当性	改善策 妥当性
生活指導	・生活習慣の定着を徹底し、落ち着いた学校生活環境づくりに努める。	(1) 礼儀や挨拶の励行に努める。 (2) 頭髪・服装など身だしなみと登下校時を含む公共マナーの遵守に努める。 (3) 清掃や整理整頓に努める。 (4) 施設・設備・備品等を大切に使用させる。	・挨拶の励行、身だしなみ、清掃・整理整頓、通学時の公共マナーの遵守など、生活習慣の定着では継続的な指導により、生徒には高い評価を得たが、保護者については挨拶と清掃の評価ポイントは微減となった。	・生活習慣(挨拶の励行、身だしなみ、整理整頓など)の定着において、生徒の評価は向上しているが、保護者の評価ポイントは左記2項目において減少、その他は上昇している。学校と家庭での生活態度の違い、生徒と保護者との価値観の違い等を検証し、改善する方策を検討したい。  ・公共マナーの遵守では、通学マナーに関する苦情もあり、引き続きの指導が必要である。	生徒 3.28	生徒 3.32	・日常生活の指導(礼儀、挨拶、清掃、整理整頓、身だしなみ、公共マナーなど)において、生徒・保護者・教職員の評価でギャップが生じていることから、更なる指導の充実と保護者への情報発信を実施し理解促進を図る必要がある。	・生徒指導部と学級担任が連携し、礼儀、挨拶、清掃、整理整頓、身だしなみなど生活の基本を身につけさせ、各家庭でも成果が実感ができる指導を実施する。  ・通学マナー向上については、各通学手段に応じた指導を行うとともに、JRや警察など外部機関の協力を得た指導を実施し、苦情件数の大幅な減少を目指す。  ・問題行動のある生徒には保護者との面談を実施し、学校と家庭が連携して生徒の改善を図っていく。	-	-
					保護者 3.11	保護者 3.22				
					教職員 2.91	教職員 2.92				
進路指導	・上級学校への進学を促進する。	(1) 進路に関する情報提供に努める。 (2) 進路に関する指導・面談に努める。	・進路指導部、学級担任、部活動顧問が連携し、約50%が東海大学へ進学している。  ・進路に関する情報提供、指導・面談では、生徒・保護者の双方から前年度を上回る評価を得た。  ・各業界で活躍する卒業生による、高校生活の過ごし方から進路・職業選択に関するキャリア教育講座「先輩学講座」を継続的に実施している。	・進路に関する情報提供・指導・面談では生徒・保護者の双方から一定の評価は得ているが、教職員の評価ポイントは微減している。進路保証は高等学校における重要な事柄であるため、さらなる上昇を目指す必要がある。その取り組みについて検討の余地がある。  ・卒業生による講座「先輩学講座」への評価は非常に高く、引き続き継続していきたい。	生徒 3.06	生徒 3.09	・進路に関する情報発信の回数を増加させ、生徒・保護者・教職員に選択の幅を広げる。  ・東海大学の概要や魅力については、生徒・保護者とも理解を得ているようであるが、東海大学以外の進路希望者への情報提供ならびに面談指導の更なる充実を図り、進路指導における保護者の理解促進を図る必要がある。  ・近年の女子生徒の増加に伴い、4年制大学への進学が若干減少傾向にある。女子生徒への進路指導の充実ならびに保護者の意識改革を図る必要がある。  ・進学・就職に係わらず生徒の希望を	・教職員に対してはメールで情報を配信、保護者についてはホームページで公開、生徒については引き続き面談や資料で伝える。  ・進路指導部と学級担任との情報連携を密にすることで、生徒・保護者に情報を正確に伝える。  ・大学進学メリットを女子生徒ならびに保護者に対して資料をもとに明確に示す。  ・東海大学以外の大学、専門学校、就職等生徒個々の進路希望に応じた適時かつ適切な情報提供を実施する。  ・生徒の進路希望と現状にギャップ	-	-
					保護者 3.06	保護者 3.20				
					教職員 3.25	教職員 3.11				
特別活動	・部活動の更なる推進を図る。  ・生徒会活動の充実を図る。	(1) 学校行事、生徒会行事への積極的な参加を促す。 (2) 教職員は部活動の指導に熱意を持って取り組む。	・学校行事、生徒会行事への積極的な参加では生徒・保護者の双方から前年度を上回る評価を得たが、教職員の評価ポイントが前年度を下回った。今後は、生徒・保護者のみならず教職員の評価ポイント向上のための内部的な取り組みを検討・実施していく必要がある。  ・部活動の指導では、生徒・保護者とも昨年度より微増したが、教職員の評価ポイントに比べると評価が低い結果となった。	・学校行事、生徒会行事への積極的な参加では生徒・保護者の双方から前年度を上回る評価を得たが、教職員の評価ポイントが前年度を下回った。今後は、生徒・保護者のみならず教職員の評価ポイント向上のための内部的な取り組みを検討・実施していく必要がある。  ・部活動加入率が年々減少傾向にある。本校への帰属意識の向上と本人のコミュニケーション能力の向上のためにも部活動への加入促進を図る必要がある。	生徒 3.13	生徒 3.17	・部活動、生徒会活動における保護者とのコミュニケーションを十分に図るとともに、活動成果をHPなどを通して広く伝え保護者をはじめとする利害関係者へ広く伝え、更なる保護者への理解促進を図る必要がある。  ・部活動指導教職員の業務バランス(教科・分掌・部活動業務)の適正化に向けた検討を行い、部活動指導教職員のライフワークバランスと部活動指導の意欲向上を図る必要がある。	・部活動の練習方法を工夫することで、部活動での成績向上(勝利至上主義ではない)と学習時間の確保にも配慮し、更なる文武両道の実現を目指す。次年度から週に最低1日は休養日を設けるとともに、練習計画表を作成し、計画的な練習を行う。また、計画表を生徒・保護者に配布し、活動内容の周知を図る。  ・活動の活性化のためにも部活動、生徒会への生徒加入率の向上を図る。  ・一年単位での変形労働制を導入し、部活動指導者の	-	-
					保護者 3.08	保護者 3.13				
					教職員 3.23	教職員 3.23				
第三者評価委員 (2020年2月21日実施)		<p>[第三者評価委員からの意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自転車通学マナーが随分よくなった。生徒の対応も明るくなった。地域との連携もできている。制服の着こなしもよい。</li> <li>○勉強だけでなくスポーツにも力を入れていることが学校や地域のイメージアップに繋がっている。今後も学校と地域の発展のために出来ることをやって欲しい。</li> <li>○生徒一人ひとりを大切に指導してもらっている。この姿勢が星翔志望者の増加に繋がっていると思う。</li> <li>○変形労働時間制について情報提供をしていただきたい。タブレットを使用しての公開授業を行って欲しい。色々な方策の地域拠点となっただけだと有難い。</li> </ul> <p>●本年度(2019年度)第三者評価委員会では、生徒・保護者・教職員による学校評価アンケート集計結果から分析した自己評価ならびに次年度に向けた改善計画の説明、本校に対する意見聴取に留まる結果となった。次年度(2020年度)の第三評価委員会では、自己評価から得た自己評価ならびに改善策に対する妥当性についての評価体制を整え、学校運営の更なる改善を図っていく。</p>								